

Bertram F. Malle

Three Puzzles of Mindreading

mindreading = 他者の心的状態を推論すること。

人間におけるこの現象については、その発達や使用について多くのことがわかってきたし(...)、進化的起源についてさえ述べられ始めている(...)。しかし、知見を統合し心的状態推論の統一理論を作ろうとすると、多くの難問が浮かんでくる。

本論ではその中でも3つの難問に着目し、その解を模索してみる。それらの解が mindreading についての同じ一般的結論を示しているという点が重用である。

First Puzzle: Behavior as Input and Output of Mindreading

人は行為者の行動を観察して心的状態を推論する。すなわち、行動の知覚は心的状態推論への入力である。

また、人は行為者に心的状態を帰属することによって行動を説明する。すなわち、心的状態推論は行動の説明への入力である。

しかしこれでは行動と心的状態との関係は循環論に陥る。

循環論から抜け出る道は2種類ある。

- ・ 一部の行動は心的状態を参照することなくその意味を当てることができる
- ・ 一部の心的状態は行動観察なしに把握できる

Raw Behaviors

生の行動観察(解釈の必要ない行動)をインプットにするという可能性。しかし、これは見込みが薄い。そもそも、行為者身体について意味を参照することなく純粹に物理的な記述をすることは、動作や運動の科学者でなければ難しく、子供やほとんどの大人にそんな知識はない。

行動のわずかな違いは異なる物理的記述を生むので、そこからそれらが同じ**タイプ**の行動だと同定する必要があるが、まったく意味を分析せずにこれを行うことは難しい。そのような純粹に物理的な行動分析は、実際に自閉症患者に見られる。行動が有意味に見えるには、生の行動の知覚を補う別の情報(文脈情報)が必要だろう。

しかし、「その人が状況をどう捉えるか」を考えずに文脈を類別することは難しい。そしてそれは信念や仮定や解釈についての推論を必要とする。

Intentionality concept

意図性の概念 – 行動を解釈する概念的枠組み

少なくとも幼児の間は、行動の意図性の判断は心的状態推論なしに行われる。この年齢では意図性は mentalize されてはならず、むしろ、観察可能な行動を二分する手段として働く。

大人の持つ意図性の概念(4種の心的状態の併合¹)はゆっくり学習される。この概念枠組みは、ある行為が意図的であるときはいつでも、背後に欲求や信念がなければならないという強力な推論を可能にするが、文脈固有の情報を提供するものではなく、単に**いくらかの欲求**と**いくらかの信念**が関与していると知るのみ。よって、行動の特定の意味を分析する必要はなく、循環論を避けられる。

¹ 行為は、欲求、信念、意図、自覚の4つを満たすときのみ意図的だと考えられる。

Transparent behaviors

知覚者が心的状態推論をせずとも意味がわかるほど十分に見える行動。

その一つは表出行動²。その意味はもともと機能的で、先行条件³や結果⁴と結びついている。先行条件や結果は物理的文脈なので心的状態の解釈は必要ない。

もう一つは基本的な動作⁵。こちらも同様に機能的で、物体や他の存在とのインタラクションにおいて果たす役割で定義される。⁶

また、これらのわかりやすい行動は心的状態推論を促進するものの候補でもある。

Effect States

行動インプットに依存しない心的状態推論があるだろうか。

心的状態には、荒っぽく言って、行動の原因としての心的状態⁷と、結果としての心的状態⁸がある。このうち結果のほうは、世界に対する比較的信頼性の高い反応とつながっているので、比較的容易に推論できる。これだけだと transparent behavior の場合と同じ道だが、しかし、結果としての心的状態は、それが表出される前や、表出行動を観察できる状況にいないときでさえ、推論され得る。

原因としての心的状態のほうは、そうはいかない。こちらの推論は、transparent behavior インプットの他に、行為者の過去の行為や一般的傾向性についての知識に依存するだろう。

まとめ

人は、transparent behavior、行動の意図性、原因の心的状態と結果の心的状態の違い、に敏感である。そうして得られたものは、より難しい心的状態の推論や、より難しい行動の意味の説明のための開始材料となる。

Second Puzzle: How Do we Speak About the Mind?

人は心について話す。心的状態は観察不可能であるということにはお構いなし。⁹

しかし心的状態とそれを指す語との正確な関係はかなり不明である。心的状態語は定義することが難しく、あいまいで、多義的である。¹⁰

数が限られた数の語がとても多様な心的状態や行為や体験に対して用いられ、文脈毎、行為者毎に変化し、それによって意味境界がぼやける。¹¹

Sabini と Silver が、これとは逆に、心的状態についての言語は心的世界よりもはるかに豊富だと言うが、それは間違いだ。彼らの研究 (pornography 発見ストーリー、Harvard 入学ストーリー) では同じ

² 痛みで叫ぶ、喜んで笑う、怒りでどなる、など

³ 痛みの場合、鋭いものや重いものが身体に押しつけられた、など

⁴ 怒りの場合、破壊的な動作、など

⁵ 腕をのばす、つかむ、歩く、立ち上がる、寝転ぶ、など

⁶ 腕をのばす、つかむ、は行為者を対象とつなげ、対象を操作可能、消費可能にする、など

⁷ 欲求、信念、意図など

⁸ 知覚、情動、など

⁹ そもそも、観察不可能な状態や対象だけでもそれについて話すことができているものはたくさんある。正義、クォーク、ビッグバン、など。

¹⁰ Uleman の章を参照。

¹¹ 例えば、多くの情動語が行動(a sad look, an angry face)も内的状態(I feel sad, she is very angry)も指す。誰かを「信頼する」とはどういうことかを説明するのに時間がかかる。believing という語は、spiritual、intellectual、perceptual、emotional な内的状態を指し得る。夢から目覚めたときに、さっきまで心にあった気持ちや考えやイメージを記述する言葉を探すのに苦労する。

心的状態を複数の言葉が指していると解釈して、これを根拠にしているが、同じ状態かどうかは誰が判断するのか？そんなことはしていない。それらの実験では人によって違う体験を記述しているのだ。情動や体験は、同定したり数えたり¹²するための境界を持っていない。情動は（より一般的には、心のすべての状態は）結合、再結合された心的、物理的状态の複合体である。それに対応する言語も同様に複雑であり、心的世界の複雑性を表現するために柔軟に組み合わせられる。だからこそあいまいで定義が難しいのだ。

ならば、どうして我々はあいまいな言語を一貫し公に共有された仕方で用いることができるのか？特に、一握りの語と限られた行動的証拠だけで行為者の複雑な経験に近づけるのはどのようにしてか？

解は、ある心的状態語が適切かを評価する**基準の多様性**にある。この基準は、内省、記憶、観察、共同注意、論理、交渉などを含む（これだけではない）。ある心的状態帰属は、これらすべての基準からの証拠をもとにしているのではなく、利用可能な証拠が収束している限りにおいて心についての話に安定性があるのだ。

学者はしばしば内省を心的状態帰属の基準とすることに神経質になる。デカルト流として退けられる人たちは内省を根本的基準と見なす。Ryle などの他の人はこれを *illusion* と見なす。Wittgenstein は「行為者が心的状態の話の基準として内省を用いることはできない、なぜならそれは私的言語を話すことを意味するから」と論じた。

しかし、行為者がときどき心についての語を選ぶガイドとして意識的体験を用いることを否定するものではない。¹³ 同様に、観察者も行為者の自己報告に頼ることはときどきある。

心的状態語の意味は内的状態への“私的指差し”に限られない。心的状態語の使用は社会的行為であって、その使用の適切さは利用可能な基準の多様性に従属する。

Third Puzzle: Is Mindreading a High-level or Low-Level Activity?

mindreading は洗練され難度の高い高次認知活動に見えるが、日々のインタラクションで行われる **mindreading** の多くは意識的でなく、いくつかは認知的ですらないかもしれない。

インタラクションにおける生理学

2 人の人間がうまくかみあっているとき、多くの方法で体が同期する。¹⁴ 行動模倣、生理学的リンク、情動伝染の研究など多くで見られる。

この動機の最もよい説明は、ある人が情動的、生理学的状態を表出したとき、別の人の中で同様の内的状態が生成されることによって行動が自動的に模倣される、というもの。

リアルタイムの会話における暗黙の推論

会話がうまく進むためには、人は連続的に相手の信念、目標、意図、情動反応をトラッキングしなければならない。トラッキングの一部は明示的な視点取得（意識的、熟慮的な推理）からなるが、一部のトラッキングは無意識的に生じ、結果として特定の心的状態の意識的帰属が起こる。

明らかにローレベルな多くの心的状態推論と、模範的な心的状態推論が示すようなハイレベルに見える特徴と、どう折り合いをつけることができるのか？この急速なシステムに役立つプロセスは、他者の心についての意識的、熟慮的な推理を行うときのプロセスと同じなのか？

¹² この扱いは物理的対象に対して適用されるのが最もよいのであって、心的状態に対してではない。

¹³ もちろん、行為者はいつも内省だけに頼って心的状態を記述することはできない。相手の知っていること、観察したこと、思い出したこと、論理やもっともらしさの仮定などを考慮する。

¹⁴ 姿勢、ジェスチャー、表情、話すタイミングと構造、心拍数、など

mindreading の全体を説明し得る唯一の方法は、単一のメカニズムを仮定するのではなく、mindreading 機能を果たす心理学的ツールの全体的セットを仮定することだ。¹⁵そのうちの、あるものは速くて一般的で、別のものはゆっくりだが新しい状況ですら正確さを目指す。また、あるものは傾向とパターンについての貯蔵された知識に依拠し、別のものは特定の文脈での知覚者自身の心的状態に依拠する。

Conclusion: Mindreading as a Manifold

3つの難問が示すことは「mindreadingの基盤にあるプロセスは多様体 manifold¹⁶である。」

- ・ 1st puzzle (心的状態推論における行動の役割): 非循環的な推論関係に至るには複数の道(意図性概念、見えすいた行動、“結果”としての心的状態)がある。
- ・ 2nd puzzle (心を語る方法): 心的状態帰属の適切さには複数の基準(内省、観察、記憶、論理、など)がある。
- ・ 3rd puzzle (mindreadingのレベル): 他者の心を扱うツールは複数あり、そのいくつかは明示的な心的状態推論ではない(情動伝染、心理的/行動的模倣、会話での仮定、など)。

mindreading は幅広い範囲の刺激や情報処理メカニズムやアウトプットをカバーする雑多な工具箱である。

「mindreading モジュール」や、すべてを包含する「心の理論」など、どんなシンプルな概念も、他者の心を理解する際に人がしていることを説明することはできないだろう。

¹⁵ Ames らの章を参照

¹⁶ 関係してはいるがしかし別個な要素の複合配列